

福島原発事故から二年半 －事実を見極める－

後藤 貞雄

2013年9月11日

<http://realstory67.web.fc2.com/>

- 第1章 概要
- 第2章 リスクマネジメントと危機管理
- 第3章 事故の経過と実態
- 第4章 事故の原因と背景
- 第5章 四つの事故調査委員会

第2章 リスクマネジメントと危機管理

GS Institute

2.1 福島原発事故の危機管理

リスクマネジメント

事前準備

破綻

潜在リスク発掘
事故発生防止
損害の低減

破綻

不測事態対応 AM
事故想定と準備

危機管理

事故対応実務
事故発生時点
(リスクの顕在化)

困難

危機の進展阻止
最悪事態の回避

⇒格納容器爆発等
⇒大規模広域汚染

★ 長期間全電源喪失は想定不要(設計審査指針)

2.2 危機管理とは何か

GS Institute

危機管理の実態

1. 危機 (極限状態⇔日常)	<ul style="list-style-type: none">• 危機進展 事態の悪化• 放置傍観 ⇒ 最悪事態・破局
2. 果たすべきこと 目的	<ul style="list-style-type: none">• 危機の進展阻止• 最悪事態回避
3. 時間・情報・人・ 資材、	<p>なし⇔(あり:日常) 与条件(すべて引き受ける)</p>
4. 対応者の能力	<ul style="list-style-type: none">• 本質の洞察、行動力• 情報分析、即断即決
5. 職務の遂行	<ul style="list-style-type: none">• 能力基準(職位・肩書基準×)• 準備された組織
Cf. 航空機・原発: 放置・傍観⇒破局	

2.3 有事の指揮官、平時の指揮官

GS Institute

	有事の人:危機対応	平時の人:日常
本質理解	洞察力大	必ずしも
意志決定	思考・即断即決	コンセンサス多数決
行動力	実行	待つ(放置)
指揮の型	率先遂行	調整型
哲学	実質	和
性格	強い 主張	温和 他意見尊重
人	平時には疎外	有事に無力
能力	見える	見えない
マニュアル	なし、極限、時間なし	あり、日常、時間十分

危機管理の現場と実務

GS Institute

